



株式会社DDホールディングス

2022年2月期 第3四半期 決算補足説明資料

2022年1月21日
(証券コード：3073)

連結業績トピックス



株式会社ダイヤモンドダイニング
【わらやき屋 九段下】（東京）

1 純資産：750百万円となり債務超過解消（自己資本比率：0.1%）

→当四半期会計期間末において、上場維持基準である自己資本も32百万円となり順調に回復

2 第6回当社新株予約権28,000個の全ての行使が完了（第7回は未了）

→当四半期累計期間の当該新株予約権における資本調達額は874百万円(発行後調達総額1,459百万円)

3 新たな市場・マーケットへの領域拡大が順調に進捗

→同業種の仕入額の増加したことにより、仕入れプラットフォームの業績も比例して増加

コーポレートトピックス①

四半期会計期間別推移：経常利益黒字化

四半期業績推移

四半期累計売上高

132.4億円

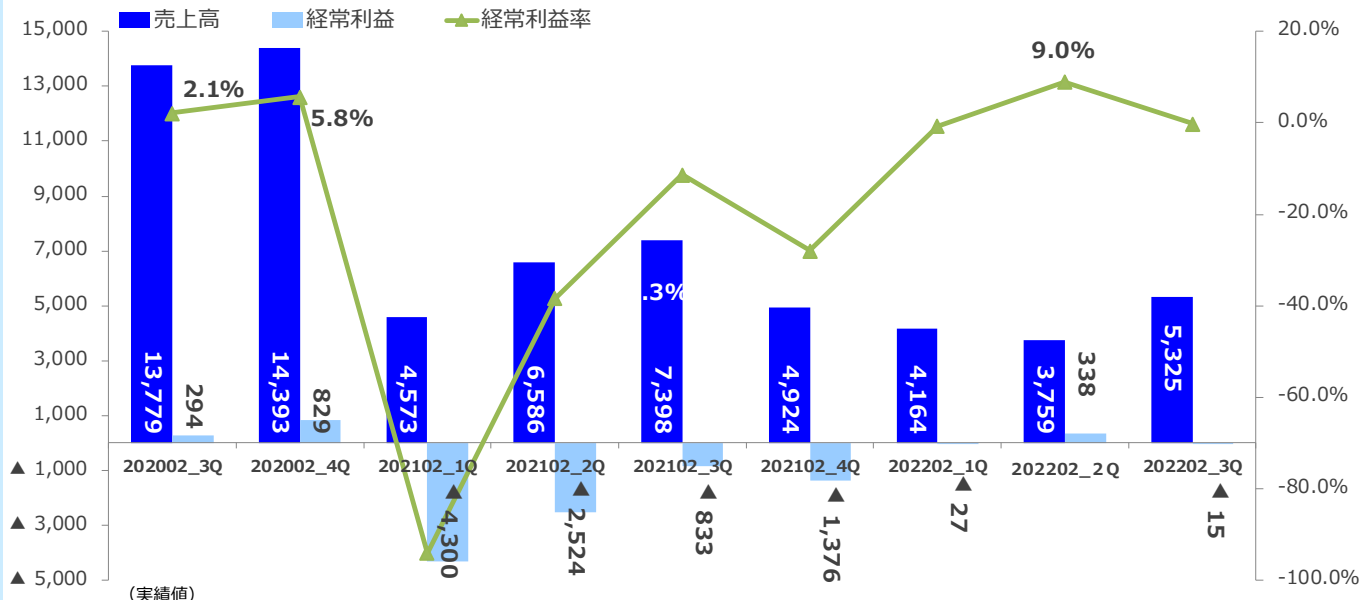
(YoY 28.6%減)

四半期累計経常利益

2.9億円

当四半期累計期間は、助成金収入6,261百万円計上により経常利益は黒字化

(単位：百万円)



(実績値)

	2020年 2 月期		2021年 2 月期				2022年 2 月期		
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	13,779	14,393	4,573	6,586	7,398	4,924	4,164	3,759	5,325
経常利益	294	829	▲4,300	▲2,524	▲833	▲1,376	▲27	338	▲15
経常利益率	2.1%	5.8%	-94.0%	▲38.3%	▲11.3%	▲27.9%	▲0.7%	9.0%	▲0.3%

コーポレートトピックス①-2

債務超過解消に向けた計画の進捗状況

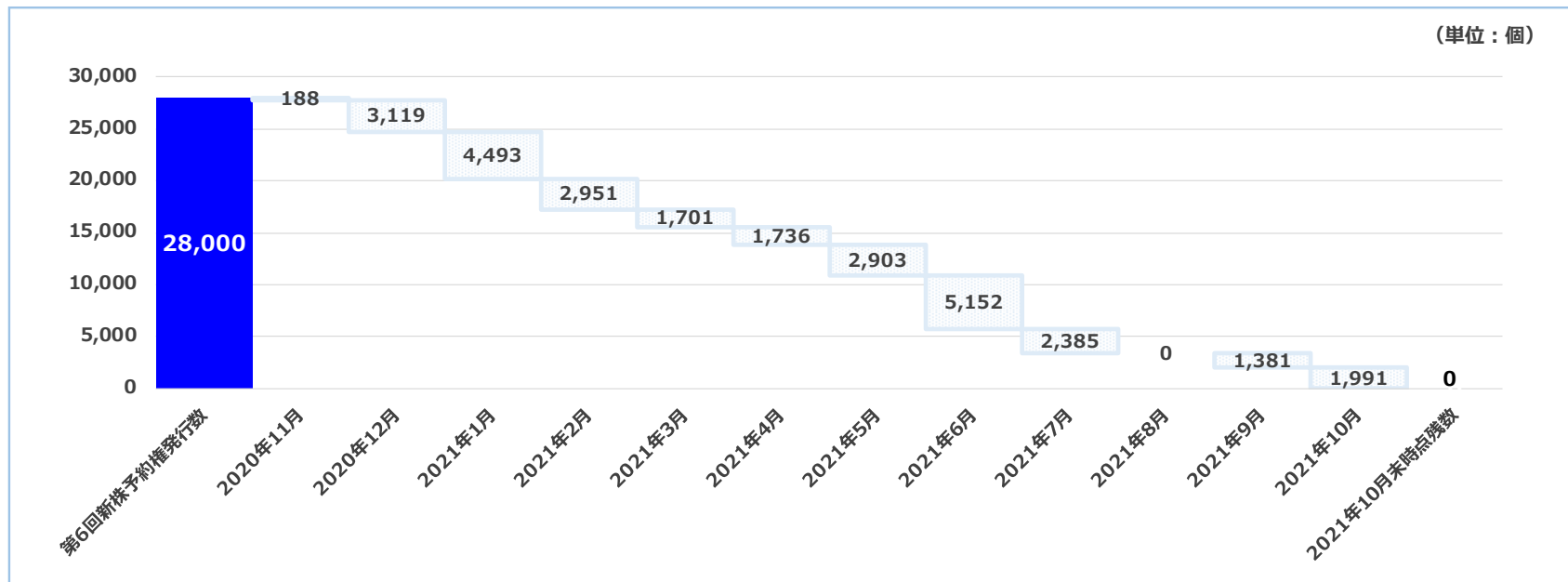


◆ 前連結会計年度は301百万円の債務超過であったが、収益改善のための各種施策及び手元流動性確保並びに資本政策を実施し純資産の額は **750百万円（自己資本：32百万円）** となり、**当第3四半期連結累計期間も継続して債務超過を回避**

債務超過解消策	施策内容	スケジュール	進捗
1 グループ会社の見直し	2020年9月1日付けで飲食セグメントの完全子会社5社を、株式会社ダイヤモンドダイニング（以下、DD社）を合併存続会社とする吸収合併を実施し、物流体制の合理化、海外法人を含めたグループ会社の整理縮小を行い、経営管理コストの削減を継続	2022年2月28日	2021年8月にDD社を存続会社としアミューズメントセグメントの(株)バグースを吸収合併を実施し、更なる効率化を決議 (効力発生日：2021年10月1日)
2 グループコストの圧縮	役員報酬の減額をはじめとした人件費の抑制、固定費圧縮を図るため、本社の縮小や業務上必要な機器・サービスの抑制、地家賃の減額交渉、コールセンターの廃止、広告宣伝費の抑制など全ての費用の見直しと削減対策を実施	2021年2月期以降	前々年度と比較して、販管費は14,466百万円の減少 (前年同期比25.2%減)
3 不採算店舗の退店	飲食事業及びアミューズメント事業の直営店舗の1割に相当する店舗の退店（2021年2月期末時点で54店舗の退店）が完了家賃減額交渉等により継続店舗が発生していたものの、 <u>当第3四半期連結累計期間において19店舗の撤退を実施</u>	2022年2月28日	政府及び各自治体からの営業時間短縮要請に伴う時短要請協力金の收受も寄与し、退店店舗は前期比減少見込み
4 手許流動性確保資本政策の実施	手許流動性を確保するため、主要取引銀行からの継続した支援をいただくため良好な関係を維持し、今後も協議を継続することに加え、行使価格修正条項及び行使許可条項付第6回新株予約権及び同第7回の新株予約権での資金の調達を行い資本の充実を図る	2022年2月28日	当第3四半期連結累計期間において第6回新株予約権の行使により調達した資金は874百万円

コーポレートトピックス② 資本政策による資金調達 – 行使進捗 –

- ◆ 2020年10月に発行した第6回新株予約権28,000個は、2021年10月20日にてすべて行使済
- ◆ 当第3四半期連結累計期間において、当該資本政策の実施により 874百万円 の資金調達を実施
- ◆ 第7回新株予約権10,000個（行使条件：P.26ご参照）は、未行使（2021年11月末時点）



◆ 「新たな生活様式」の定着を鑑み、コア事業の業績回復と並行し新規事業の準備を順次開始

	既存サービス	新規サービス
新規市場	<p>新たなマーケット</p> <p>事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業領域の拡大・新たな顧客の獲得 <p>新マーケットの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EC展開の拡充による新たな顧客獲得を推進 ・不動産サービス事業（ホテル等）における成長戦略を検討 <p>「食」を起点とする店舗運営以外のマーケット開拓</p>	<p>将来的な事業展開</p> <p>事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当社らしさ+お客様とのタッチポイントの増加 <p>顧客LTVの最大化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営人材の育成 ・将来に向けた社内インフラ整備 <p>世界に誇るオープンイノベーション企業へ</p>
既存市場	<p>コア事業</p> <p>事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食・アミューズメント事業を主軸とした安定した事業展開モデルの確立 <p>コア事業の収益回復</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニューノーマルに対応する業態開発に注力 ・新型コロナウイルス感染対策の徹底を継続 <p>ニューノーマル対応と収益構造の転換</p>	<p>新たなサービス</p> <p>事業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の経営資源を活用した新規事業創出 <p>新サービスの開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アライアンス等を含めた新規事業の創出方法を検討 ・ノウハウ提供による他企業支援（CVC等） <p>次なる収益源の事業化に向けた取組</p>

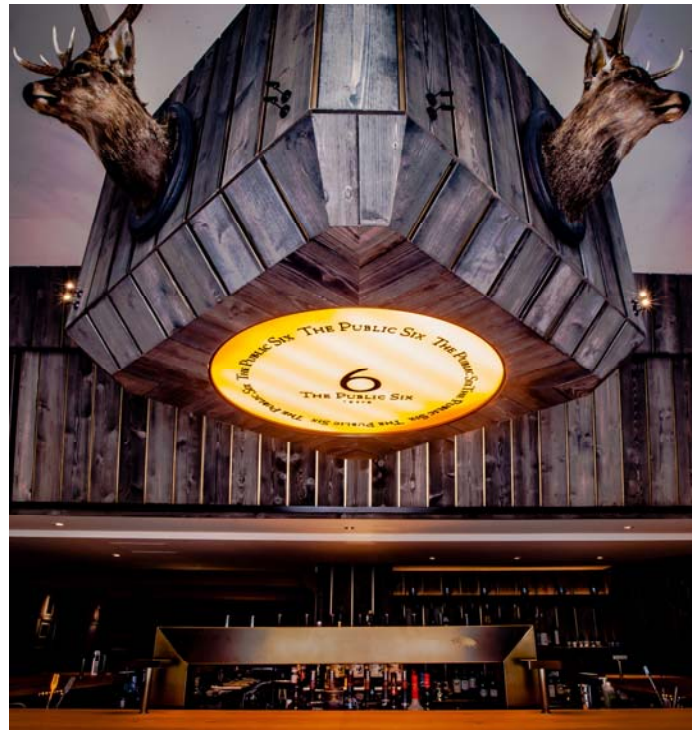
事業セグメント_トピックス

新規サービス・マーケットの創出

◆ With/Afterコロナの外部環境や消費者の行動様式等の変化に対応するため、ポートフォリオ拡充を推進

◆従前の主要な業績変動要因		コア事業		新たなマーケット	新たなサービス
		コロナ対応要素		売上減少に伴う仕入総額の減少	OVER THE 外食
業態	立地	客層	地域	気候	
+		◆消費者の行動様式、経済、社会の変化へ対応			
項目	①デリバリー (ゴーストキッチン)	②フランチャイジー (FC加盟)	③購買プラットフォーム	④アライアンス	
取組み	①サービス提供をイートン(店舗)に加えてデリバリープラットフォームを活用し人流減少に対応	②当社の強みである店舗運営力を活かし、ファストフード業態等で購買メリットの享受が見込まれる業態へのFC加盟	③当社購買力を活かした仕入プラットフォームビジネス展開を実施し、同業他社様へ当社スケールメリットを享受することで、業界内Win-Winの関係構築	④直営店舗の優良立地の特性を活かし、「飲食提供」による顧客へのサービス提供からの脱却。アライアンス形態による「アミューズメントポーカー」業態の開始	
開始時期	2021年4月に本格的S-in	2022年2月期中	2021年3月にS-in	2022年2月期中	

連結業績



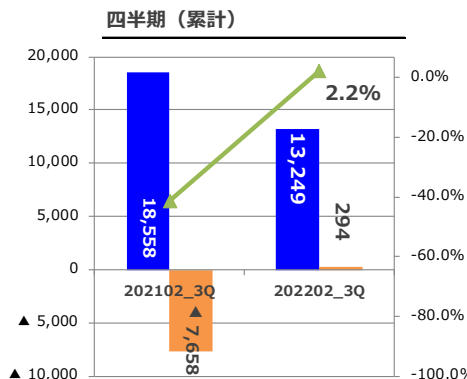
株式会社バグース
【THE PUBLIC SIX】（東京）

連結損益計算書の概況（累計）

（単位：百万円）

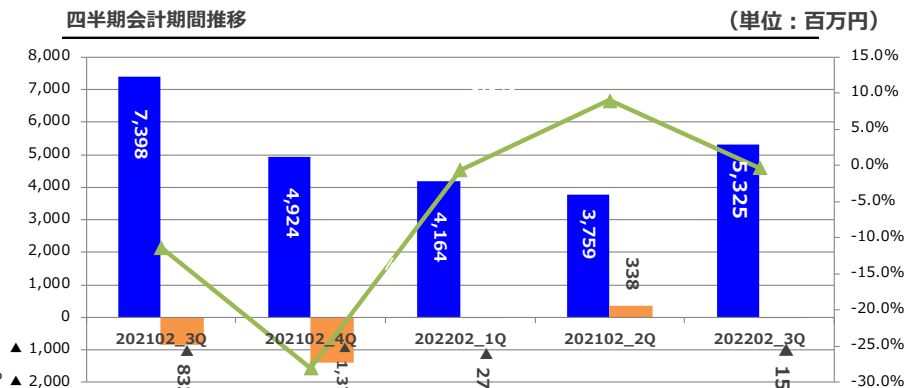
科目名	2021年2月期	2022年2月期	増減額	増減率	コメント
	3Q実績	3Q実績			
売上高	18,558	13,249	▲ 5,309	▲28.6%	新型コロナウイルス感染症の感染拡大は依然として収束に至らず、時短営業や酒類提供の制限の実施やゼットン持分法適用関連会社へ異動した結果、▲28.6%（前々期比▲69.2%）の減少 緊急事態宣言の発令等による営業時間及び酒類提供の自粛要請等の影響があったものの前年同四半期と比較して、ランチ、デリバリー比率が上昇した影響があるものの0.4point改善
	-	-			
売上原価	4,355 23.5%	3,050 23.0%	▲ 1,305	▲30.0% ▲0.4point	
売上総利益	14,203 76.5%	10,198 77.0%	▲ 4,004	▲28.2% 0.4point	
販売費及び一般管理費	21,731 117.1%	16,257 122.7%	▲ 5,474	▲25.2% 5.6point	運営コストの最適化を継続しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受け一定期間賃料減額であった賃料が通常に戻ったことで、地代家賃5.8point増、人件費1.1point増
営業利益（損失：▲）	▲ 7,528 ▲ 40.6%	▲ 6,058 ▲ 45.7%	1,470	- -	
経常利益（損失：▲）	▲ 7,658 ▲ 41.3%	294 2.2%	7,953	- -	助成金収入（時短要請協力金等）を6,261百万円計上
親会社株主に帰属する 四半期純利益（損失：▲）	▲ 6,286 ▲ 33.9%	267 2.0%	6,553	- -	減損損失：89百万円（前年同四半期449百万円）計上 法人税等合計：244百万円（前年同四半期▲1,145百万円）計上

連結損益計算書の概況（四半期推移）



	2021年2月期	2022年2月期
	3Q実績	3Q実績

売上高	18,558	13,249
売上原価	4,355	3,050
売上総利益	14,203	10,198
販売費及び一般管理費	21,731	16,257
営業利益（損失）	▲ 7,528	▲ 6,058
経常利益（損失）	▲ 7,658	▲ 294
親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益（損失）	▲ 6,286	267
EBITDA	▲ 6,280	▲ 5,275
（ご参考）のれん控除前営業利益（損失）	▲ 7,351	▲ 5,923



	2021年2月期		2022年2月期		
	3Q実績	4Q実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績
売上高	7,398	4,924	4,164	3,759	5,325
売上原価	1,616	1,059	950	879	1,220
売上総利益	5,782	3,865	3,213	2,880	4,104
販売費及び一般管理費	6,479	6,040	5,371	5,331	5,555
営業利益（損失）	▲ 697	▲ 2,175	▲ 2,157	▲ 2,450	▲ 1,450
経常利益（損失）	▲ 833	▲ 1,376	▲ 27	338	▲ 15
親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益（損失）	▲ 701	▲ 2,221	▲ 139	205	201
EBITDA	▲ 343	▲ 1,805	▲ 1,893	▲ 2,193	▲ 1,189
（ご参考）のれん控除前営業利益（損失）	▲ 650	▲ 2,130	▲ 2,112	▲ 2,405	▲ 1,405

セグメント別業績概況（四半期推移）

3Q（累計）

		2021年2月期	2022年2月期
		3Q実績	3Q実績
飲食	売上高	14,276	9,618
	営業利益（損失）	▲ 5,613	▲ 4,236
	営業利益率	▲39.3%	▲44.0%
アミューズメント	売上高	3,469	2,250
	営業利益（損失）	▲ 928	▲ 1,251
	営業利益率	▲26.8%	▲55.6%
ホテル・不動産	売上高	813	1,379
	営業利益（損失）	33	417
	営業利益率	4.2%	30.3%
全社	売上高	18,558	13,249
	営業利益（損失）	▲ 7,528	▲ 6,058
	営業利益率	▲40.6%	▲45.7%

四半期会計期間

（単位：百万円）

		2021年2月期		2022年2月期		
		3Q実績	4Q実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績
		5,475	3,484	3,015	2,636	3,967
		▲ 458	▲ 1,401	▲ 1,502	▲ 1,785	▲ 948
		▲8.4%	▲40.2%	▲49.8%	▲67.7%	▲23.9%
		1,505	1,080	723	619	908
		19	▲ 247	▲ 431	▲ 507	▲ 311
		1.3%	▲22.9%	▲59.7%	▲82.0%	▲34.4%
		416	359	424	504	450
		137	62	132	168	116
		32.9%	17.3%	31.2%	33.5%	25.9%
		7,398	4,924	4,164	3,759	5,325
		▲ 697	▲ 2,175	▲ 2,157	▲ 2,450	▲ 1,450
		▲9.4%	▲44.2%	▲51.8%	▲65.2%	▲27.2%

同四半期_四半期実績（2022年2月期3Q）対比

【全セグメント】

新型コロナウイルスの感染状況は、エリアにより違いはあるものの、感染拡大は依然として収束に至らず、第1四半期より継続して緊急事態宣言が発出されている事により、営業時間短縮や酒類提供制限を受け、前年同四半期会計期間比（前々年同四半期比）売上高は飲食セグメント▲27.5%（▲65.2%）、アミューズメントセグメント▲39.7%（▲61.6%）の結果となりました。

営業利益につきましては、「経営合理化等を含む今後の経営方針」「債務超過解消に向けた取組み」で公表させていただいたグループ会社の見直し、広告宣伝費の抑制など、全ての費用の見直しと削減対策を継続して実施しており、販売費及び一般管理費合計では、前々同四半期（2020年2月期）と比較して、▲4,631百万円（前年同期比14.3%減）の減少

不動産サービスセグメントにおいては、前連結会計年度より神奈川県からの要請を受け、新型コロナウイルス感染症軽症者の受け入れ施設として、「PARK IN HOTEL ATSUGI」を提供（一棟有償借上げ）することで、逼迫する地域医療の負担軽減に努め、前期に開業したホテルは順調に推移し、既存ホテルにおいても各種施策を実施し一定数の客数減に留まった。

加えて、コンテナ事業においては解約等も過小であり安定した収益となりました。その結果、当四半期会計期間においては、116百万円（営業利益率:25.9%）となりました。

主要係数（四半期推移）



3Q（累計）

	2021年2月期	2022年2月期
	3Q実績	3Q実績
売上原価率	23.5%	23.0%
販管費率	117.1%	122.7%
営業利益率	▲40.6%	▲45.7%
（ご参考）のれん償却除前営業利益率	▲39.6%	▲44.7%
経常利益率	▲41.3%	2.2%
EBITDA	▲6,280	▲5,275

3Q（累計）

	2021年2月期	2022年2月期
	3Q実績	3Q実績
有利子負債額	25,464	24,989
ネットD/Eレシオ	28.6	650.4
自己資本比率	2.0%	0.1%

四半期会計期間

（単位：百万円）

	2021年2月期		2022年2月期		
	3Q実績	4Q実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績
	21.9%	21.5%	22.8%	23.4%	22.9%
	87.6%	122.7%	129.0%	141.8%	104.3%
	▲9.4%	▲44.2%	▲51.8%	▲65.2%	▲27.2%
	▲8.8%	▲43.3%	▲50.7%	▲64.0%	▲26.4%
	▲11.3%	▲27.9%	▲0.7%	9.0%	▲0.3%
	▲343	▲1,805	▲1,893	▲2,193	▲1,189

四半期会計期間

（単位：百万円）

	2021年2月期		2022年2月期		
	3Q実績	4Q実績	1Q実績	2Q実績	3Q実績
	25,464	24,301	24,963	25,403	24,989
	28.6	-20.3	▲25.8	▲101.8	650.4
	2.0%	-3.1%	▲2.5%	▲0.6%	0.1%

【売上原価率】 前年同四半期比は、▲1.1pointの低減となった要因としては、継続したコスト削減及びデリバリー比率が相対的に低下したことが主たる要因であります。

【経常利益率】 前年同四半期比で人件費1.1point、減価償却費▲0.9point、地代家賃5.8point等の増減に加え、時短要請協力金等の「助成金収入」を6,261百万円を計上

【有利子負債比率】 ワクチン接種等の対策促進が進み、緊急事態宣言の解除されたものの依然として先行きは不透明な状況が続き、コロナ関連融資による短期借入金等が増加いたしました。前年同四半期と比較して有利子負債額は475百万円減少し24,989百万円、有利子負債比率は74.3%（前会計年度末：77.6%）となり微減

連結貸借対照表



(単位：百万円)

	2021年2月期 期末	2022年2月期 3Q	前期比増減		2021年2月期 期末	2022年2月期 3Q	前期比増減
流動資産	8,508	11,780	3,272	有利子負債	24,301	24,989	687
現金及び預金	4,259	4,150	▲ 109	その他負債	7,309	7,896	587
その他流動資産	4,248	7,630	3,382	負債合計	31,610	32,885	1,274
固定資産	22,703	21,806	▲ 896	株主資本	▲ 1,118	26	1,145
有形固定資産	10,956	10,683	▲ 272	利益剰余金	▲ 3,001	▲ 2,735	265
無形固定資産	3,224	3,052	▲ 171	その他の包括利益累計額	132	5	▲ 127
のれん	3,122	2,987	▲ 135	新株予約権	9	5	▲ 4
投資その他の資産	8,522	8,069	▲ 453	非支配株主持分	674	713	39
繰延資産	97	48	▲ 48	純資産合計	▲ 301	750	1,052
資産合計	31,309	33,635	2,326	負債・純資産合計	31,309	33,635	2,326

【増減主要要因】

（資 産）当第3四半期連結会計期間末における総資産の残高は、前連結会計年度末に比べ2,326百万円増加し、33,635百万円となりました。主な要因といたしましては、現金及び預金、差入保証金がそれぞれ109百万円、527百万円減少したものの、未収入金が2,636百万円増加したこと等によるものであります。

（負 債）前連結会計年度末に比べ1,274百万円増加し、32,885百万円となりました。主な要因といたしましては、短期借入金、未払金がそれぞれ991百万円、921百万円増加したこと等によるものであります。

（純資産）前連結会計年度末に比べ1,052百万円増加し、750百万円となりました。資本金、資本剰余金、利益剰余金がそれぞれ439百万円、439百万円、265百万円増加したこと等によるものであります。

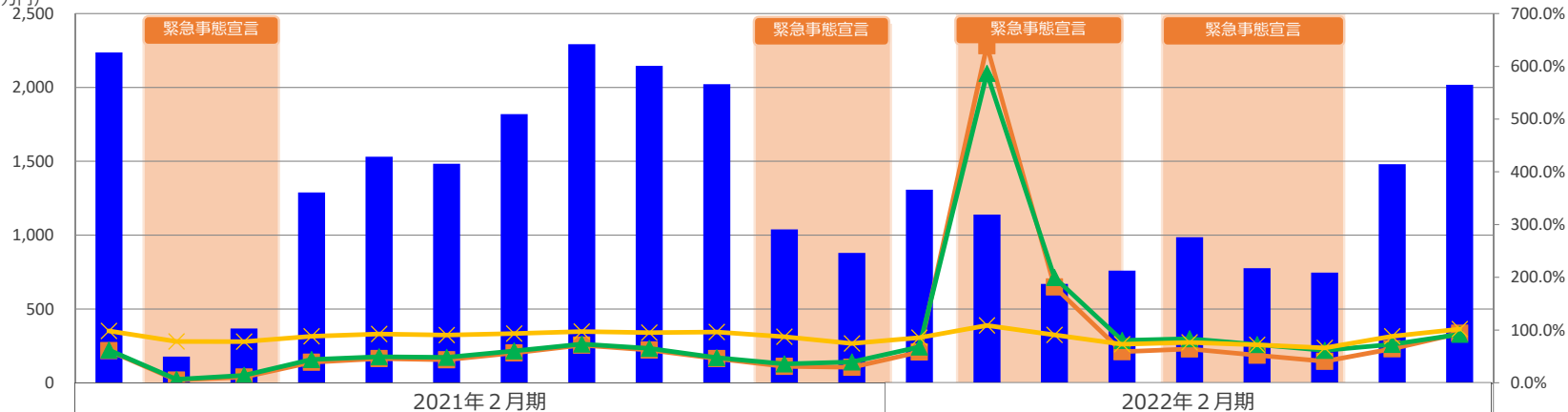
国内全店同年同月比_推移



株式会社ダイヤモンドダイニング
【九州熱中屋 上野LIVE】(東京)

国内全店 売上高・客数・客単価 前年同月比

(単位：百万円)



2021年2月期

2022年2月期

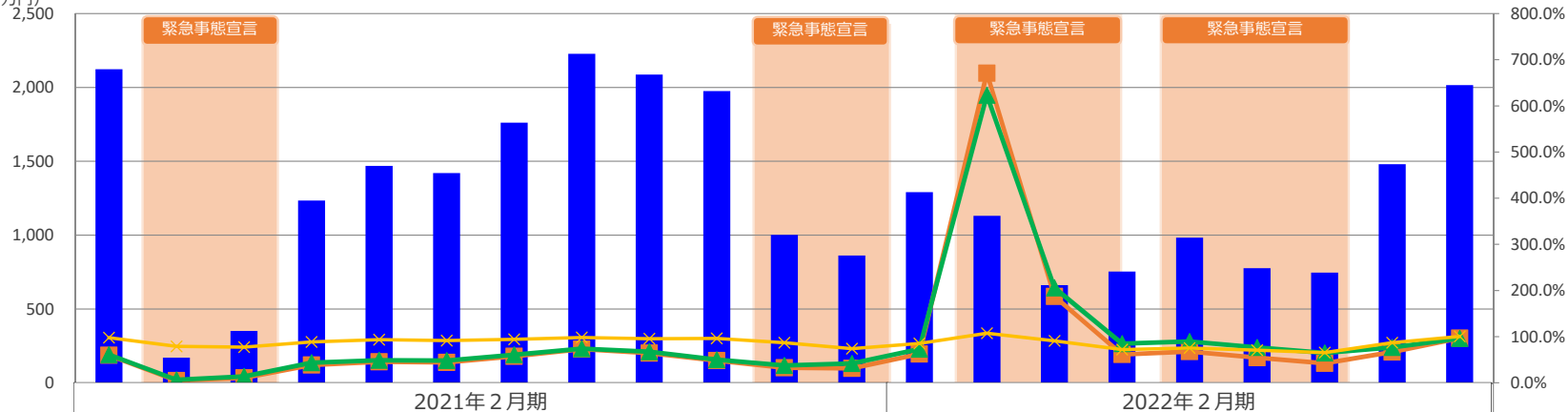
3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
■ 売上高	2,237	178	368	1,289	1,531	1,484	1,820	2,293	2,147	2,022	1,040	880	1,308	1,140	670	761	987	777	747	1,481	2,018
■ 売上高	61.2%	5.2%	11.1%	39.3%	46.0%	43.9%	56.7%	71.7%	62.4%	46.0%	31.4%	29.5%	58.5%	639.3%	181.9%	59.0%	64.4%	52.4%	41.0%	64.6%	94.0%
■ 客数	62.3%	6.7%	14.2%	44.5%	49.7%	48.4%	60.5%	73.6%	65.4%	47.7%	35.9%	39.6%	68.1%	586.7%	199.9%	80.5%	83.8%	72.6%	61.8%	73.0%	92.1%
■ 客単価	98.4%	78.6%	78.1%	88.4%	92.7%	90.7%	93.6%	97.4%	95.4%	96.5%	87.6%	74.7%	85.8%	109.0%	91.0%	73.3%	76.9%	72.2%	66.4%	88.4%	102.0%
	1Q			2Q			3Q			4Q			1Q			2Q			3Q		
売上高	26.8%			43.1%			63.5%			36.9%			112.0%			58.6%			67.8%		
客数	28.8%			47.0%			66.4%			41.6%			128.1%			78.9%			76.0%		
客単価	93.3%			90.7%			95.6%			86.5%			94.6%			74.3%			89.3%		

国内既存店①全店 売上高・客数・客単価 前年同月比



(単位：百万円)



2021年2月期

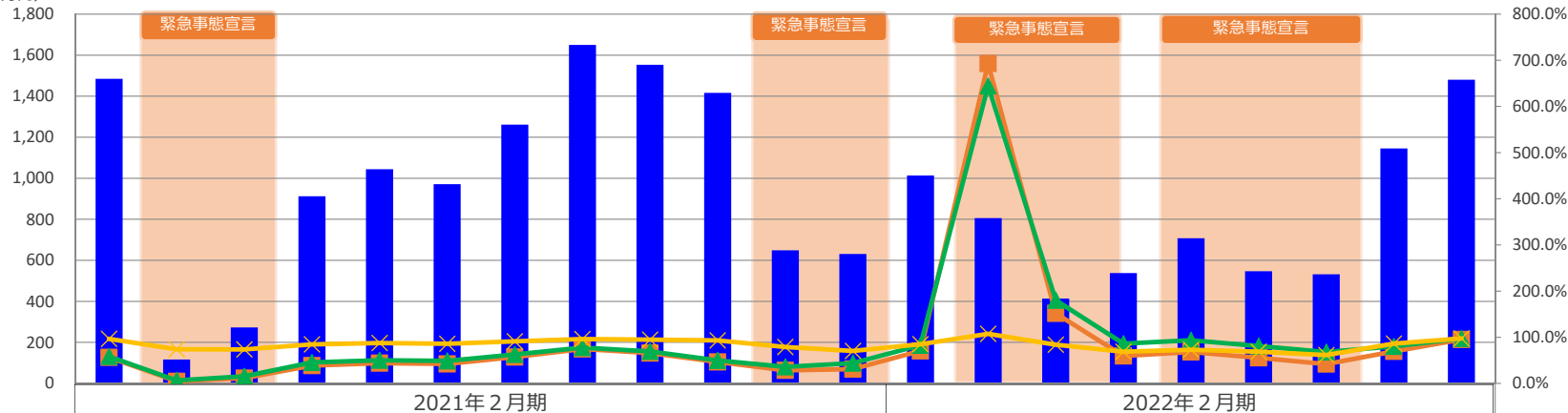
2022年2月期

3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
■ 売上高	2,124	171	352	1,235	1,470	1,420	1,762	2,228	2,088	1,976	1,002	863	1,291	1,132	662	754	984	777	747	1,481	2,016
■ 売上高	60.0%	5.2%	10.9%	38.8%	45.9%	44.4%	57.5%	73.2%	64.7%	48.5%	33.0%	31.4%	62.6%	671.1%	187.4%	61.5%	67.8%	54.6%	42.5%	67.1%	97.1%
■ 客数	61.3%	6.6%	14.0%	43.6%	48.9%	48.5%	61.0%	74.3%	67.6%	50.3%	37.8%	42.2%	73.2%	623.3%	205.9%	85.2%	89.7%	76.9%	65.0%	76.9%	96.5%
■ 客単価	97.9%	79.1%	77.6%	88.9%	93.8%	91.7%	94.4%	98.5%	95.8%	96.5%	87.2%	74.3%	85.5%	107.7%	91.0%	72.2%	75.6%	71.0%	65.5%	87.3%	100.6%
	1Q			2Q			3Q			4Q			1Q			2Q			3Q		
売上高	26.3%			43.1%			65.1%			38.9%			119.3%			61.3%			70.3%		
客数	28.3%			47.0%			67.5%			44.0%			136.9%			83.8%			79.8%		
客単価	93.0%			91.5%			96.4%			88.5%			94.1%			73.0%			88.0%		

国内既存店②飲食 売上高・客数・客単価 前年同月比

(単位：百万円)



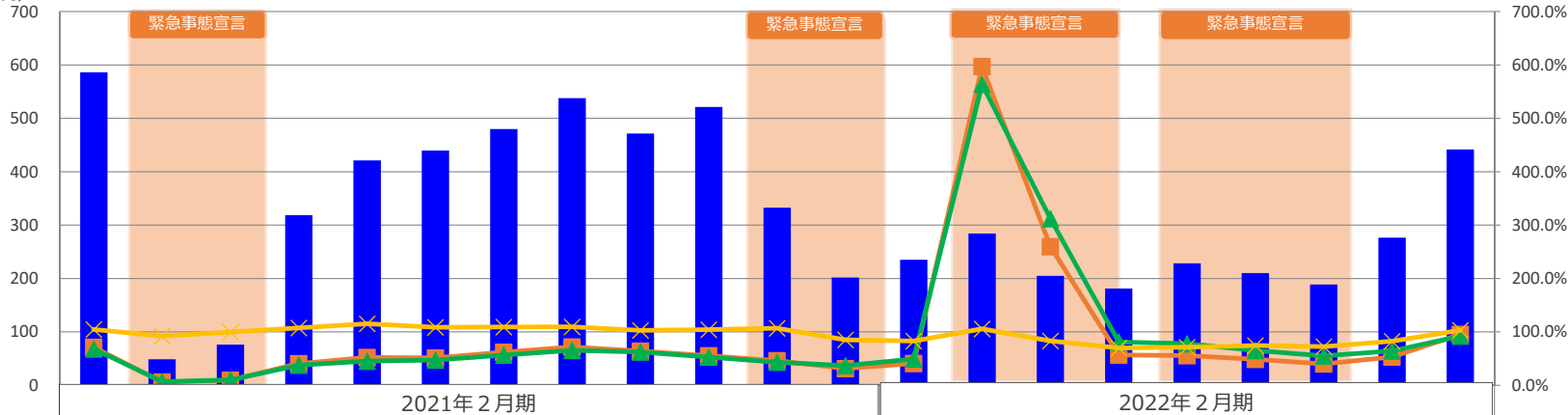
2021年2月期

2022年2月期

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
■ 売上高	1,485	117	273	912	1,044	971	1,262	1,650	1,553	1,417	649	631	1,014	807	414	538	708	547	532	1,146	1,480
■ 売上高	56.7%	4.8%	11.5%	38.8%	44.1%	42.3%	57.3%	74.9%	66.0%	46.6%	28.5%	31.2%	70.5%	693.1%	152.0%	59.5%	68.3%	55.7%	42.1%	69.5%	95.4%
■ 客数	58.7%	6.5%	15.6%	45.8%	50.3%	49.0%	62.8%	77.7%	69.5%	49.9%	36.0%	44.2%	82.8%	644.6%	180.4%	86.3%	93.5%	81.1%	68.2%	80.4%	97.6%
■ 客単価	96.5%	74.1%	73.8%	84.6%	87.7%	86.2%	91.3%	96.4%	95.0%	93.4%	79.0%	70.6%	85.1%	107.5%	84.2%	68.9%	73.1%	68.7%	61.7%	86.5%	97.7%
	1Q			2Q			3Q			4Q			1Q			2Q			3Q		
売上高	25.3%			41.7%			66.0%			36.7%			122.3%			61.3%			70.8%		
客数	27.9%			48.4%			69.9%			43.8%			143.5%			87.0%			82.6%		
客単価	90.7%			86.2%			94.5%			83.8%			91.8%			70.5%			85.6%		

国内既存店③アミューズメント 売上高・客数・客単価 前年同月比

(単位：百万円)



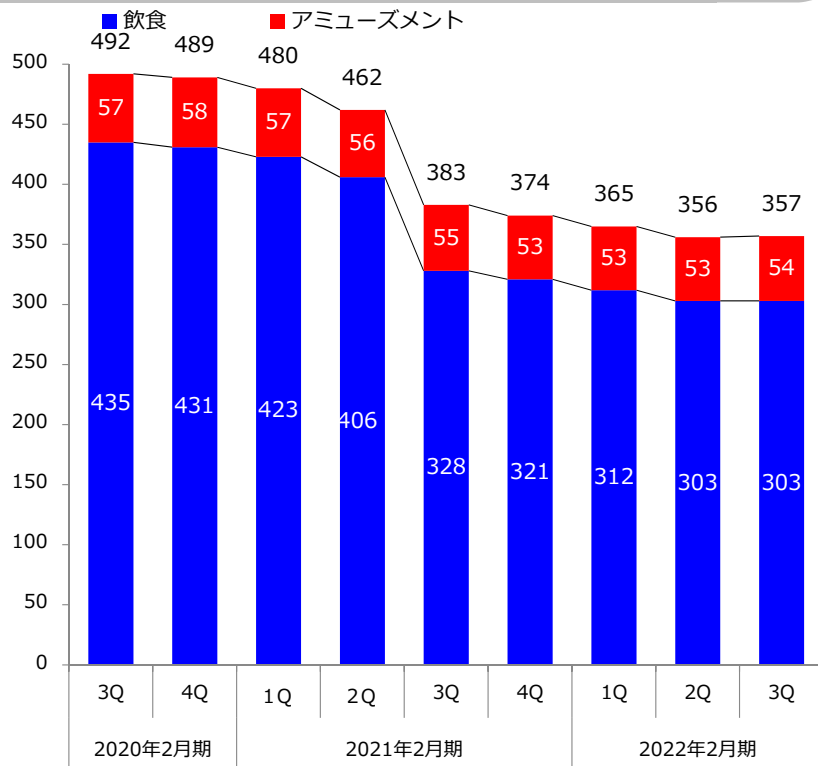
	2021年2月期											2022年2月期									
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
■ 売上高	586	49	76	319	421	440	480	538	472	522	333	202	235	284	205	181	229	210	189	277	442
■ 売上高	71.5%	6.2%	9.8%	40.7%	52.4%	51.4%	62.1%	72.0%	64.3%	55.4%	46.2%	31.5%	41.1%	597.3%	259.9%	57.0%	55.7%	48.7%	40.2%	53.2%	95.4%
■ 客数	68.1%	6.8%	9.9%	37.8%	45.5%	47.3%	56.7%	65.6%	62.4%	53.0%	43.3%	36.9%	49.5%	564.2%	312.2%	81.4%	78.0%	65.3%	55.3%	64.4%	92.4%
■ 客単価	104.8%	92.3%	99.7%	107.6%	115.4%	108.7%	109.4%	109.7%	103.0%	104.5%	106.9%	85.3%	83.1%	105.9%	83.2%	70.1%	71.4%	74.6%	72.7%	82.6%	103.2%
	1Q			2Q			3Q			4Q			1Q			2Q			3Q		
売上高	29.9%			48.3%			66.1%			45.9%			103.7%			53.5%			62.4%		
客数	29.6%			43.6%			61.4%			45.1%			119.3%			74.2%			70.4%		
客単価	101.0%			110.8%			107.5%			101.6%			90.3%			72.1%			88.6%		

新規出店・退店の状況



株式会社エスエルディー
【kawara CAFÉ&DINING 福岡パルコ店】（福岡）

当社グループの出退店の状況 (店舗数推移)



- ✓ 新規出店：2店舗
- ✓ 退店店舗：19店舗（海外事業撤退3店舗含む）

【店舗数推移】

	1Q	2Q	中間期合計	3Q	4Q	通期合計
①新規出店	0	1	1	1		2
②業態変更	0	2	2	2		4
③退店	9	10	19	0		19
④店舗数 (①-③)	365	356		357		

※注1 上記直営店舗の他、LC2店舗、運営受託店舗7店舗を運営しております。

※注2 2021年2月期第3四半期より株式会社ゼットンが持分法適用関連会社となり、店舗数より除外しております。

国内・外出店エリア

【グループ全社店舗数（飲食・アミューズメント事業）】

属性	店舗数
飲食（国内）	303店舗
飲食（海外）	0店舗
アミューズメント（国内）	54店舗
直営店舗 合計	357店舗
ライセンス+運営受託店舗	9店舗
全店舗 合計	366店舗

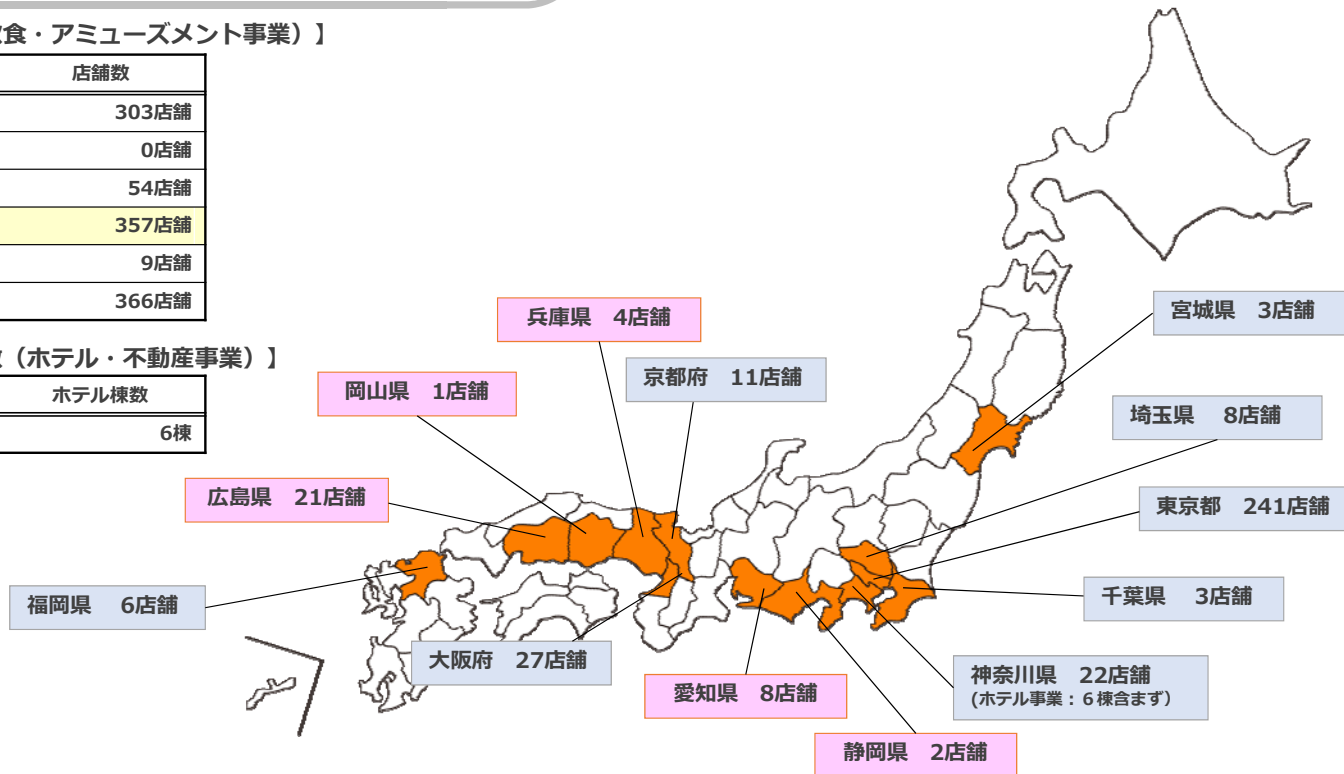
【グループ運営ホテル棟数（ホテル・不動産事業）】

属性	ホテル棟数
ホテル・不動産（ホテル）	6棟

※2021年11月末日現在

【凡例】

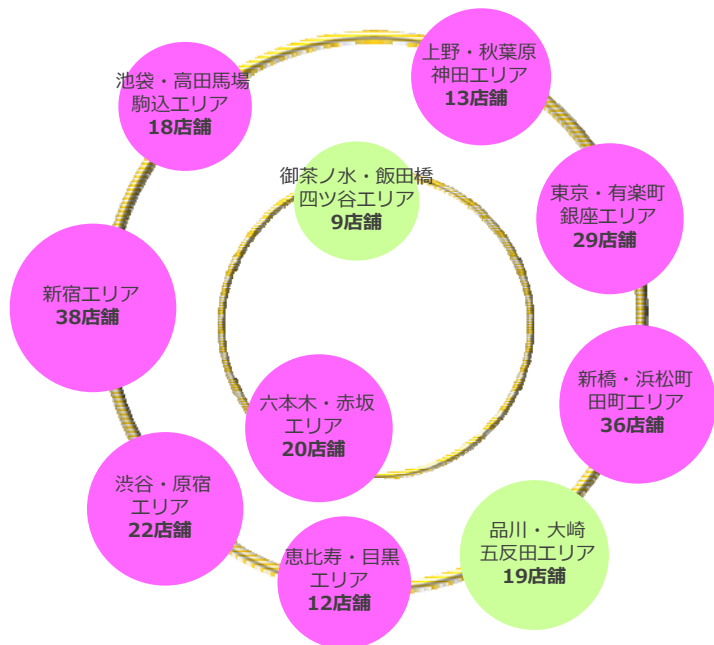
- …飲食部門のみ
- …飲食部門及びアミューズメント部門出店



※注 2021年2月期第3四半期より株式会社ゼットンが持分法適用関連会社となり上記店舗数より除外しております。

山手線沿線出店状況 -ドミナント戦略-

山手線沿線出店状況(2021年11月末現在)



山手線沿線内出店数 216店舗

グループ^①全社直営店舗数※ 357店舗

※ 国内グループ直営店舗数

直営店舗に占める割合 60.5%

【凡例】 ● …飲食店舗とアミューズメント店舗がドミナント ● …飲食店舗のみ

※注 2021年2月期第3四半期より株式会社ゼットンが持分法適用関連会社となり上記店舗数より除外しております。

◆ 湘南レーベル(株)等のM&Aによる取得により、前事業年度から「不動産サービス事業」セグメントを変更

セグメント	展開方針
飲食・アミューズメント事業	国内飲食 全国主要都市を中心に居酒屋・ダイニング・カフェなど様々な店舗を展開。今期においては従前どおり既存ブランドのブラッシュアップを行いながら、業容拡大並びに更なるポートフォリオ拡充のための業態開発に注力。 2021年11月末時点で国内303店舗を展開。 セグメント内には、ウェディング、F C・L C、ベンチャーキャピタルを含む。
	海外飲食 2021年8月16日開催の取締役会において、海外飲食事業を行っていたDiamond Dining International Corporationの全株式を同社の代表取締役社長に譲渡し、海外飲食事業からは撤退。
	アミューズメント 「BAGUS」ブランドにて高級感のあるビリヤード・ダーツ・カラオケ事業、インターネットカフェ事業の運営に加え、2018年よりカプセルホテル事業に参入。厳選した立地にのみ出店を行い、今後さらなる収益性向上を目指す。 2021年11月末時点で国内54店舗を展開。
ホテル・不動産事業	「湘南を世界のSHONANへ」というスローガンのもと、湘南の感度の高いビーチカルチャーをベースとした人々の暮らしにかかわる事業に注力。神奈川県においてホテル運営事業6棟の他、飲食事業、貸コンテナ事業、賃貸事業、戸建て不動産販売事業等、複数の事業を展開。2021年3月に「SLE不動産」を開業。

資本政策の状況



湘南レーベル株式会社
【8HOTEL CHIGASAKI (エイトホテル 茅ヶ崎)】 (神奈川)

【エクイティファイナンスの目的】

- ◆現中期経営計画「Super7 Project(スーパーセブンプロジェクト)」に従い、既存事業の強化・拡大に加え、ブランドポートフォリオの拡充（新規ブランドの開発及び新規ブランドによる新規出店）、仕入面等におけるスケールメリットの追求、優秀な人材の確保等の経営資源配分の適正化、事業領域の強化・拡大を目的としたM&Aの活用により、着実な事業成長を追求
- ◆新型コロナウイルス感染症拡大の影響により売上高が減少している状況を早期に解消し、事業基盤及び財務基盤の安定化を実現するため、グループ会社の見直し、固定費削減や各種契約の見直しを含めた一般管理費等の削減、不採算店舗の退店、人員の適正配置等の対応策を実施しているものの、業績の回復状況を慎重に見極める必要性有
- ◆こうした状況においても引き続き着実な事業成長を達成していくため、エクイティファイナンスを通じて、自己資本の充実と借入金の低減で財務体質を一層強固なものとし、環境の変化に柔軟に対応していく体制を築く

【調達進捗】

1 第6回新株予約権行使許可

- 行使許可日 : 2021年3月10日、6月8日、9月6日
- 許可期間 : 2021年3月11日～2021年12月3日
※180取引営業日
- 行使許可数 : 17,249個

2 2022年2月期首から3Qまでの調達金額

- 行使予約権数 : 17,249個 ※1
- 調達金額 : 874百万円

※1 第6回新株予約権は当第3四半期連結会計期間末に、発行した28,000個の全ての行使が完了しております。

【資金使途】

1 事業基盤安定化に向けた運転資金

- 金額 : 1,538百万円 / 支払予定時期 : 2020年11月～2021年2月
- 概要 : 経営悪化に備えるための運転資金、リストラクチャリングに関わる費用

2 新規事業開発のための投資資金

- 金額 : 300百万円 / 支払予定時期 : 2020年11月～2023年2月
- 概要 : 新しい生活様式に対応する新規事業開発

3 財務健全性の強化に向けた借入金の返済資金

- 金額 : 1,209百万円 / 支払予定時期 : 2020年11月～2021年2月
- 概要 : 有利子負債の減少、金利支払いに要する費用負担軽減

新株予約権概要

名称		第6回新株予約権 (行使価額自動修正型新株予約権)	第7回新株予約権 (行使価額修正オプション型新株予約権)
割当予定先		モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社	
発行概要	発行決議日/割当日	2020年10月26日/2020年11月20日 (条件決定日: 2020年10月30日)	
	行使可能期間	2020年11月24日~2022年11月24日 (約2年間)	
	発行新株予約権数	28,000個	10,000個
	当該発行による潜在株式数	2,800,000株	1,000,000株
	潜在希薄化率 ^(注1)	約24.3%	
	調達予定金額	28.4億円 (差引手取概算額)	
行使価額	当初行使価額	条件決定日の直前取引日の終値	条件決定日の直前取引日の終値と1,000円のいずれか高い方
	行使価額の修正	行使請求日毎に、直前取引日の終値×93%に行使価額が自動的に修正	当社が取締役会決議した場合、決議日の直前取引日の終値×96%に決議日翌取引日に修正される
	下限行使価額	条件決定日の直前取引日の終値の70% (460円) が下限	731円 (発行決議日の直前取引日の終値)
その他	行使許可	割当予定先が行使許可申請をした場合、行使可能となる株数および期間を指定した上で、当社は行使許可通知が可能 (行使許可期間の最長は60取引日) 当社は一度出した行使許可をいつでも取り消すことが可能	
	取得条項	当社の取締役会決議により発行価格でいつでも取得可能 (ただし行使許可期間中は取得決議は出来ない) 行使期間満了時に残存がある場合、発行価格で取得	

注

1. 2020年8月31日時点 発行済み株式総数 15,642,720株

会社概要



株式会社ダイヤモンドダイニング
【24/7 coffee&roaster ujina】（広島）

会社概要 (2021年11月末日現在)



- ◆ 商号 株式会社DDホールディングス
- ◆ 上場市場 東京証券取引所 市場第一部
- ◆ 証券コード 3073
- ◆ 本社所在地 東京都港区芝4-1-23 三田NNビル18F
- ◆ 設立 1996年3月(平成8年)
- ◆ 資本金 1,351百万円
- ◆ 発行済株式数 18,442,720株 (注) 2021年11月末現在
- ◆ 決算 2月末日
- ◆ 代表者名 松村 厚久
- ◆ 従業員数 連結 4,148名 (正社員 1,295名・パートナー (平均) 2,853名) ※2021年8月末現在
- ◆ グループ会社
 - ・ 連結子会社数 : 12社
 - ・ 持分法適用関連会社数 : 2社
 - ・ 持分法非適用関連会社 : 1社
 - ・ 非連結子会社数 : 1社
- ◆ 監査法人 太陽有限責任監査法人
- ◆ 事業内容 飲食・アミューズメント事業 : 国内飲食事業(居酒屋・レストラン等)、ウェディング事業
ビリヤード・ダーツ・複合カフェ等、カプセルホテル事業
ホテル・不動産事業 : ホテル運営事業、貸コンテナ事業、不動産売買事業

経営
理念

“ 世界に誇る「オープンイノベーション企業」を目指す ”

行動
指針

Dynamic & Dramatic

大胆かつ劇的に行動する

3
つ
の
指
針

異業種、異分野が持つ技術や知識を組み合わせ革新的なビジネスモデルを構築します。

グループ各社の理念・個性を尊重し相互補完と相乗効果で企業価値を最大化します。

世界に誇る「オープンイノベーション企業」を目指すため、ダイナミック&ドラマティック大胆かつ劇的に行動します。

グループ会社紹介



2020年9月1日付けで(株)ダイヤモンドダイニングを合併存続会社として
飲食連結子会社4社を、2021年10月1日付で(株)バグスを吸収合併。
”強い信念と誇りを持って「Enjoy」を追求する”を企業理念とし、
多種多様な業態、エリアにて飲食・アミューズメント店舗の運営を行う。
2021年11月末現在318店舗を展開。



VAMPIRE CAFE (東京)



わらやき屋 (東京)



九州熱中屋 (東京)



24/7 coffee & roaster ujina (広島)



京都祝言 (京都)



BAGUS (東京)



2019年3月1日に合意書の締結により連結子会社となった(株)エスエルディー。

「To Entertain People～より多くの人々を楽しませるために～」という企業理念のもと、「kawara CAFE&DINING」業態をはじめとする飲食店舗の運営、

「Collabo_Index」業態等における他社保有IPコンテンツ（アニメ、ゲーム、漫画、音楽等の創作物）を活用した期間限定コラボレーションイベントの実施、店舗プロデュースや運営受託（「ポケモンカフェ」等）、自社公式ECサイト等を展開。2021年11月末現在39店舗を運営。



kawara CAFE&DINING (仙台店)



公式ECサイト 『SLD At Home』



イマダ キッチン

「IMADA KITCHEN」

zetton
inc.

1995年創業の(株)ゼットン。

「店づくりは、人づくり」「店づくりは、街づくり」の企業理念のもと、「地域社会に貢献するホスピタリティ企業」として魅力あるコンテンツが“街”をつくるという思想にて、アロハテーブル事業、ダイニング事業、アウトドア事業、ブライダル事業、国際事業を運営。愛知県を始め、関東圏、中部圏、関西圏、海外（ハワイ）等の幅広いエリアに2021年11月末現在73店舗（直営69店舗）を展開。2021年2月期第3四半期より連結子会社から持分法適用関連会社へ。



ALOHA TABLE nakameguro



orange (オレンジ)



GARDEN RESTAURANT
TOKUGAWAEN



2007年の創業以来、「湘南を世界のSHONANへ」というスローガンのもと、湘南の感度の高いビーチカルチャーをベースとした、人々の暮らしにかかわる事業に注力しており、神奈川県に「8HOTEL」「パークインホテル厚木アンドリグナ厚木」「3SHOTELHIRATSUKA」のホテル運営事業の他、飲食事業、貸テナ事業、賃貸事業、戸建て不動産販売事業、貸別荘事業等、複数の事業を展開。



8 HOTEL FUJISAWA
(神奈川県藤沢市)



8 HOTEL CHIGASAKI
(神奈川県茅ヶ崎市)



KAMAKURA HOTEL
(神奈川県鎌倉市)



3S HOTEL HIRATSUKA
(神奈川県平塚市)

本資料につきましては、株主・投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。また、本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上でご利用ください。

尚、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、株主・投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、株主・投資家の皆様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

お問合せ先

グループ経営管理本部 経営企画部

T E L : 03-6858-6082

F A X : 03-6858-6083

E-mail : ddhd_ir@dd-holdings.com



DD HOLDINGS

Dynamic & Dramatic

大胆かつ劇的に行動する